



仙台三高

仙台三高PTA会報



●●目次●●

- ごあいさつ……………P 2
- PTA各研修会報告……………P 3
- 忍者ハットリくん……………P 3
- ありがとう三高！……………P 4～5
- 前期体育大会の様子……………P 6
- 後期体育大会の様子……………P 6
- 三高祭の様子……………P 7
- 校外研修+修学旅行……………P 7
- 三学年より……………P 8 他

編集発行
 宮城県仙台第三高等学校PTA事務局
 〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷1丁目19番
 TEL 022 (251) 1246 FAX 022 (251) 1247
 印刷 創文印刷出版株式会社
 題字 菊田奈穂 (48回生)

卒業に寄せて



PTA会長 中野 愛弥



第五十五回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、今日までお子様を大切に育ててこられた保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。また、子供たちを全力でご指導、応援してくださいました校長先生をはじめ教職員の皆様、何時も温かく見守ってくださいました地域の皆様方には深く感謝申し上げます。

仙台三高で過ごした日々を今頃皆さんは思い返している頃でしょうか。この三年間で皆さんの経験を、皆さんの人と出会い心も体も大きく成長したことと思います。時には新しいこと、難しいことに挑戦すればするほど失敗することもあるでしょう。自分ひとりで悩んだり、誰かに相談しても答えが見つからず苦しんだり、作り笑顔でやり過ごした日々もあったのではないのでしょうか。そんなあなた達を私達大人は「頑張つて、やればできるはず。乗り越えて。」などの言葉しかかけてあげられなかったけれど、どんな時でも支えてあげたい、信じているよ、応援したい見守ってあげたいと今でも思い続けています。この三年間、部活や勉強、学校行事に一生懸命取り組

み、仲間と励まし合いながら本当によく頑張つてくれました。私達大人に成長を見守る喜びを与えてくれたことにも、ありがとう！と皆さんに伝えたいです。

「TEAM三高」には、偉大な先輩方、可愛い後輩達、大好きな友人、真正面から向き合ってくれた先生方、そして大切な家族と皆さんの仲間がいます。どんなに苦しいことがあつたとしても、いつも誰かがあなたのことを思っています。そのことを忘れず、これから進む新しい道に自信をもって笑顔で過ごしていただく。

最後になりましたが、これまでPTA活動にご理解とご協力をいただきました保護者の皆様へ感謝申し上げます。これから子供達が心身ともに健康に過ごされることと、さらなるご活躍を祈念してお祝い言葉とさせていただきます。

第五十五回生の卒業を祝して



校長 佐々木克敬



第五十五回生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様に改めてお祝いを申し上げますとともに、これまで本校の教育活動に対して深い御理解と御協力を頂戴しましたことに衷心より感謝申し上げます。

今年度はラグビーワールドカップが日本で開催されました。サッカーのワールドカップと並び、世界中の人々が熱狂する四年に一度の大会です。今大会での日本代表の活躍とそれまでの険しい道のりは、いろいろな報道で既知のことと思います。その中でも「One Team」というフレーズが今年の流行語大賞にも選ばれ、日本チームの象徴とされました。

三高では「Team三高」というキャッチフレーズのもとで様々なことに取り組んでいます。部活動はもちろんのこと、行事や学習そして受験もそうです。「Team三高」とは、みんな仲良く同じ目標に向かって頑張らましよう、という意味には留まりません。真の意味は、ラグビー代表チームが答えを与えてくれています。選手の目標の第一は、目の丸をつけて戦う代表チームのメンバーに選ばれることです。そのためには、他の選手よりも優れた技術や戦術を身に付け、強

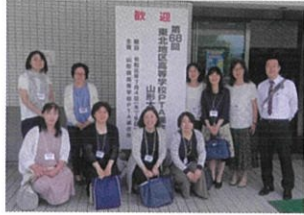
また試合は一人ではできません。フィールドには十五名が必要ですし、実際には同レベルのサブの選手が複数名必要です。体力消耗の激しいラグビーでは殊更です。さらに、八十分のゲームで勝利を得るためには、細かな戦術の共有と良好なコミュニケーション、質の高いサポートが必要です。このことは、チーム競技の本質です。ここで大切なのはチームワークの向上のために仲良くすることでなく、互いに切磋琢磨することでチーム力を高めることです。その過程で、個人の資質能力もまた向上させることが真の「Team」です。

切磋琢磨は「論語」にある言葉です。四書五経の「詩経」では、「切（き）るが如く、磋（す）るが如く、琢（う）つが如く、磨（みが）くが如く」骨や象牙、玉や石をそれぞれみがくことを指しています。転じて学問修養に励む意味となりました。卒業生の皆さんは、大学や社会でこれからの新たな仲間とチームを作り切磋琢磨し続けなければなりません。単に仲良しグループを作るのではなく、更なる高みを目指し良きライバル、良きチームを作ってください。第五十五回生が良きライバルであり、よきチームメイトであったように。

東北地区高等学校PTA山形大会報告

第2学年委員長 正橋 裕美

山形北高等学校の生徒さんの山形県民の歌「最上川」の素晴らしい独唱をオープニングに山形大会が7月5日に開催されました。研究協議では「子どもたちの自立を支え、家庭・学校・地域が一体となった地域創生をめざすPTA活動」をテーマに東北5県のPTAの発表がありました。PTA活動が活発に行われている学校や少子化により生徒数の確保が課題の学校等、各学校の環境は大きく違っていました。しかし、「いつも保護者は、常に子どもたちと情報を共有し、未来に向かう子どもたちを支えていくことが大切である。」それはどんな時も違いはないと改めて感じた一日でした。



全国P連京都大会に参加して

PTA監事 松本阿津子

8月22日～23日第69回全国P連の京都大会が「Kyoから！未来を拓く」をテーマに開催されました。中野会長、菅田教育振興会副会長、佐々木事務局長と4人で参加して参りました。参加した分科会は永田和宏氏（京都大学名誉教授）が「大学は自分の可能性を見つける場である」をテーマにした講演でした。「大学は最後の教育の場であり、知の体力をつける必要がある。そのためには想定外の出来事に対処できる力をつける。それが大学である。」このような機会を頂きました事に感謝申し上げます。ありがとうございます。



宮城県高P連仙塩支部研修会報告

1学年副委員長 柴田麻衣子

宮城県高P連仙塩支部会員研修会が、令和元年11月12日（火）に仙台市福祉プラザにて開催されました。

今年度の記念講演は、オイカワデニム前社長の及川秀子氏をお招きし、震災でのご経験を元に『日本の新しい希望！三つの命を大切に！』を題材に、「1生命」「2使命」「3一生懸命」の三つの命についてお話をいただきました。民間の避難所第一号として150名の避難者の方々の約4か月の生活を、復興とは「人として生活すること、それは働くことである」と気付き、4月4日には工場を再稼働したお話をされました。

及川氏の明るさと前向きなお話に引き込まれ、私自身母親として気づかされました。

このような有意義な機会をいただきました事に感謝申し上げます。ありがとうございました。



PTA全体研修会に参加して

PTA副会長 浅野富美子

9月28日（土）に行われた今年度の研修会には、第一線で活躍する優れた女性科学者に贈られる第39回「猿橋賞」を2019年に受賞されたばかりの、東北大学金属科学研究所准教授 梅津理恵先生を講師にお迎えしました。

多くの三高生が憧れとしている東北大学をまさに拠点として行われている、梅津先生が携わる機能性金属磁性材料に関する世界最先端の研究について、多くの画像と共に熱く紹介していただきました。「これからの子どもたちに必要なものは、『語学力』『目標設定』『自己主張』と梅津先生がご自身の経験から断言されたように、私たち保護者も、大学入試ばかりではなくその先をも見据えた広い視野をもたせ、加速する社会のグローバル化に対応できるような働きかけを子どもたちにしていかなければならないことを実感させられました。



みやぎ高校PTAフェスティバルの報告

PTA副会長 紺野ますみ

10月10日、太白区文化センターで開催されたこの事業に、本校から9名が参加しました。

当日は仙台高校ダンス部のアトラクションが披露され、パネルディスカッションでは各校PTAの取り組みと課題が紹介されました。

また仙台白百合大学教授の氏家靖浩氏の講演では、大崎弁の混じる温かく明朗な語り口で先生の子育てでの体験をお話頂きました。

来年度は本校が県Pの当番校で活動します。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



忍者ハットリくん

仙台三高教諭 佐藤 利幸 (20回生)

「ニューヨークに行きたいかぁー！」♪ターラーラーラララー。あの福留功男の名進行に乗せられて熱狂したオバケ番組、アメリカ横断ウルトラクイズを覚えているでしょうか？「あれをやりたい」と思ったんです、ロングホームルームで。当時、私とハットリくんはホームルーム委員でした。ハットリくんというのは、仙台三高20回生、サッカー部の服部修治君のことで、彼のお兄さんは、なんと現在の服部教頭先生です。というわけで、LHRで「三高横断ウルトラクイズ」をやりました。まず教室で〇×クイズをやります。次にばらまきクイズ。問題を封筒に入れて、窓から外にばらまきます。階段を駆け下り、封筒を拾って駆け上がり、教室で封筒を開けて問題を読みます。「ゴレンジャーの戦闘員の真似をせよ。」なんていう問題もあったと思います。最後は早押しクイズ。どうやってやるか？今ならば早押しボタンくらいワンクリックで手に入るでしょうが、当時そんな物は、どこにもありません。ハットリくんとは仙台駅前のデンコードーに行って、「早押しボタンの作り方を教えて下さい！」と言って部品を買い込み、2人で作りました。結構ちゃんとした決勝戦ができたと思います。優勝賞品は学食のカツ丼1週間分！それから、最初に負けちゃった人も、誰が優勝するか賭け・・・投票して当たると賞品が貰えました。楽しかったなあ。みんなも、「ちょっと無理かな」「ちょっと怒られるかな」って事にチャレンジしてみよう！



う三高!



3年1組



歌唱指導から始まり、不安で最初はどうなるのかと思いましたが、振り返ってみると仙台三高での三年間は、本当に充実していました。勉強、部活動、課題研究など、大変なことはたくさんありましたが、みんなと共に乗り越えていくことができ、どれも良い思い出になりました。三高で得た経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思います。ありがとう三高。佐藤 京



3年2組



3年2組は持ち前の明るさと謎のテンションで、多くの先生に迷惑をかけながらも学校行事や受験に邁進してきました。かけがえない時間を共に過ごしてきた仲間や、HRで毎日のようにポケをかます笠間先生を見れなくなるのはとても寂しいですが、これほど個性溢れる明るいクラスで過ごすことができ本当に良かったです。齋藤 雄太



3年3組



3年3組のメンバーとは2年生からの付き合いで、色々な思い出を共有してきた。体育祭や文化祭といった行事を経るごとにクラスの団結力はどんどん増していき、55回生の中でも大きな爪痕を残せたと思う。このクラスで過ごすことができなと思うと少し寂しいが、私はこの素晴らしい仲間に出会えて三高生活を謳歌できたことを誇りに思う。向笠 紘平



3年4組



体育祭や学年レクなどほとんどの行事で2位だった3年4組。「1位じゃないんだね」とよく言われたが、そういう人に僕は「2位じゃだめなんですか」と言いたい。1位を目指し努力し、成長できる、それが2位であり、3年4組なのである。そんなクラスと共に笑い合えたことを誇らしく思う。言いたくはないが別れを言おう。「さようなら。そしてありがとう。」

虻川 蓮

ありがとう



3年5組は大器晩成なクラスで、後期体育祭ではその力を遺憾なく発揮し、体育祭総合優勝を成し遂げました。一人一人が「個」を大切に、何も指し示さずとも自然と行動する姿勢は、勉強を後押しする雰囲気づくりにも繋がったと思います。そんなかけがえのない級友に出会えたこと、そして三高という最高の環境で三年を過ごせたことを嬉しく思います。 渥美 伊織

3年5組



「あ」：あまり大きな声で言えないんですが
「り」：倫政の授業は大喜利大会
「が」：頑張る方向逆ベクトル
「と」：利幸先生に二度も鍵を閉めさせ
「う」：後ろの黒板は無駄地帯
こんな3-6でしたけど、仙台四校（〇谷学院）よりも、三高のことが大好きでした（たぶん…）。とにかくにも、「ありがとう三高！」 一同（主に男子）

3年6組



3年7組は個人の個性を互いに尊重できる協調性に富んだクラスである。文化祭では食品団体部門で最優秀賞を受賞できた。一方、個人という側面に焦点をあてても、人として秀でていると感じる人物が多かった。「卒業」という言葉は些か寂しくも感じるが、支えてくれた級友や先生方、両親への感謝の気持ちを忘れず卒業式を迎えたい。3年間ありがとうございました。制野 未空

3年7組



3年8組は静かすぎると言われることも多々ありましたが、クラスメイト同士で勉強を教え合ったり、文化祭では協力して賞をとることができました。また、素晴らしい級友の姿に刺激を受けたことによって勉強と向き合ってきたのだと思います。三高で出会い、あっという間に過ぎていく高校生活を共に過ごした級友たち、そして先生方に感謝したいです。 鈴木 美結

3年8組





前期体育大会

～種目～

- ・バスケットボール
- ・ソフト

2019.7.11(木)・12(金)



総合優勝 3-5

後期体育大会

2019.10.16(水)

～種目～

- ・100m・400m・100mH
- ・リレー・二人三脚リレー・走り幅跳び・走り高跳び
- ・砲丸投げ・メディシンボール投げ・綱引き
- ・長縄跳び・パン食い競争・部対抗リレー・女子ダンス





令和初の文化祭

「伝統の継承を目指して」

三高祭実行委員長

阿部 太陽

「令和に巻き起こせ！龍神ストーム」というテーマの下令和初の三高祭が始動しました。

「平成」が終わり「令和」が始まった今の時代でも先輩達が繋いできた伝統の重みは変わりませんでした。その伝統を後世へ伝えようと努力しました。

今年の文化祭も昨年に負けず劣らずたくさんの方に来校していただきました。今年の文化祭も成功と言える盛り上がりだったのではないのでしょうか。

最後に三高祭にご助力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



校外研修 (1学年)

10月29日(火)

主な行き先

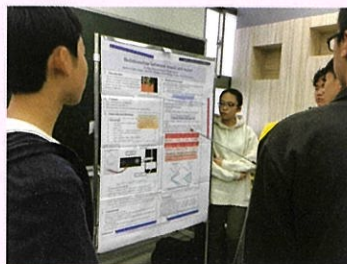
1組	うみの杜水族館・奥松島
2組	大川小学校・松島
3組	宮沢賢治記念館・巖美溪
4組	那須高原・りんどう湖
5組	盛岡手作り村・小岩井農場
6組	岩手大学・小岩井農場
7組	岩手大学・小岩井農場
8組	裏磐梯もくもく自然塾・磐梯高原南が丘牧場



修学旅行

2学年 理数科 <台湾>

11月27日(水)~ 30日(土)



修学旅行

2学年 普通科 <東京方面>

11月27日(水)~11月29日(金)



東京大学にて



OBによる講話

卒業おめでとうございます 三年間の思い出

「令和最初の卒業生」



第三学年委員長 浅井 理香

五十五回生、並びに保護者の皆様、卒業おめでとうございます。今年度は、元号が変わり「令和初の卒業生」や「センター試験最後の受験生」となり、大きな節目の年になりました。

中学校の制服を着て出席した入学式、厳しい歌唱指導でスタートした高校生活。気付けばもう三年が過ぎてしまいました。

娘は将来の目標がはっきりしていなかったため、文系理系を決めることから悩みました。興味のあることを探し、何校もオープンキャンパスに足を運び、大学を絞っていきました。自分とひたすら向き合い、将来のことを必死に考えた三年間でした。

学校のこと子供と関わることもできるのも高校生までです。親として一緒に悩み考え、たくさん話合ってきたので、悔いはありません。

朝日新聞(十一月)で二回にわたり、三高の魅力についての記事が掲載されました。入学後の「自分像」を描けるのが三高、と書かれていました。こんなすばらしい学校に通えたことを誇りに思い、自分で選んだ道に自信をもって進んでいってほしいと思います。最後にになりましたが、これまでの役員活動にご理解とご協力を頂きました教職員の皆様、保護者の皆様、学年委員の皆様、本当にありがとうございました。

「卒業によせて」



第三学年主任 黒田 千夏

三年生保護者の皆様、お子様の卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

保護者の皆様にはこの三年間、学校を信じてお子様を預けてくださいましたことに、深く感謝申し上げます。保護者と教員がチームになって陰ひなたで支えてこそ、子供は安心してたぶん一人で大きくなったような気持ちで、自信をもって巣立っていきけるのだと実感強く持つことができました。

入学直後の歌唱指導の衝撃から始まり、部活動と勉強のペースづくり、求められる高いコミュニケーション能力。三高生であることは厳しい試練の連続だったと思います。その中で自らを鍛え、後輩をリードして、仙台三高の名を全国に響かせるまでに立派に成長してくれたことを誇りに思います。

また、五十五回生は、三高初の全校体制でのSSHの取り組み(探究の授業)、そして、初の理数科海外修学旅行を実施した学年でもあります。試行錯誤、紆余曲折しながらであったこれらの取り組みを私たちが形とすることができたのも、ひとえに、真っ直ぐで何ごとにも一生懸命に取り組む生徒たちと、広い心で応援してくださった保護者の皆様のお陰だと感じています。ありがとうございます。

最後になりましたが、保護者の皆様のますますのご健勝と、令和の新时代に羽ばたくお子様の活躍を祈念いたします。

令和元年度尚志公表表彰

功績賞(10名)

- 相澤 源希 宮城選抜選手として茨城国体に出場して、7位入賞に貢献した。
- 佐藤 理来・岩瀨 陽・笠原 康太郎・佐々木 惲人・平戸 李奈 高校化学グラウンドコンテストにおいて全国4位となる読売新聞社賞、日本学生科学賞において入選1等を受賞した。
- 乙供 真澄・濱野 斗真・佐藤 広樹・小山 西音 日本学生科学賞において環境大臣賞を受賞した。

功労賞(41名)

- 田中 裕人 出口 将斗 我妻 航也 船津 丈 太田 拓巳 向笠 紘平 中野 雄斗
- 佐藤 七海 茂庭 里帆 阿部 藤吉郎 大谷 瑞貴 菊池 葉月 萩原 馨介
- 鈴木 祐希 高橋 怜央 進藤 優慈 阿部 拓海 千葉 帆夏 田中 慎之輔 佐藤 翼介
- 三浦 恭資 佐藤 和貴 齋藤 晃汰 吉川 純矢 馬淵 多恵 安藤 優哉 佐藤 萌々
- 外館 綾苗 石川 ひなた 有馬 沙耶 信太 遥貴 平川 航伎 松原 亜斗 高橋 怜汰

令和元年度皆勤賞受賞者 3年間皆勤 (38名)

- 一組 阿部 太陽 太田 拓巳 尾形 海 佐藤 理来 高野 裕人 高橋 玄
- 二組 赤間 雄飛 木村 緑杜 久道 一真 我妻 蒼太 大嶋 菜月 酒井 朋樹 向笠 紘平 村橋 巧
- 三組 柴田 美空 大嶋 祐介 我妻 航也 緒方 萌 佐治奈津子 星 優里奈 安蘇 幸輝 石川 晃多 及川 洸誠 菅野 涼太 渡辺 斐友 大谷 瑞貴 阿部 浩大 岸 息吹 佐藤 喜紀 田中慎之輔 渡邊 晏子 川原 真都 佐竹 航
- 七組 村上夢野花 太田 裕也 大竹 佑汰 松本 龍郎 横田 京
- 八組

編集後記

時は今 初めの昔より導れし者 ここに態を成す 心を開きおのが姿を顕せ (陶彩画・龍の題名より)

三高そのものだと感銘した言葉です。広報誌から三高の気持ち良さをお伝え出来たなら幸いです。広報誌発行にご協力頂きました先生方、関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。(委員長 佐々木清子)

広報委員

- 三年 佐々木清子 瀬下 尚子 稲妻佳代子 飯田千佳子 入野田奈緒美 石森瑠美子 木暮美智子 田中真美子 白石さゆり
- 二年 中川 万野 中村 文恵 福土恵美子 佐藤 純子 庄司 明子 菅澤 和広 岩佐 美江 木村 栄子 矢吹英里子 小嶋 恵美 佐藤 真希 田中 未重 本間 静子
- 一年

